

特別活動

1 生徒会活動の目標

特別活動のうち生徒会活動は、全生徒を会員として組織し、学校における自分たちの生活の充実・発展や学校生活の改善・向上を目指すために、生徒の立場から自発的、自治的に行われる活動である。このような生徒会の集団における望ましい集団活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団や社会の一員としてよりよい学校生活づくりに参画し、協力して諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度を育成することが生徒会活動の目標である。

生徒会活動においては、このような目標を実現する過程で、生徒の自主性・主体性を育てるとともに、学校集団としての活力を高め、健全で豊かな学校生活が展開できるような集団を育成することが期待される。

2 生徒会活動の内容

生徒会活動の内容については、学習指導要領に次のように示されている。

学校の全生徒をもって組織する生徒会において、学校生活の充実と向上を図る活動を行うこと。

- (1) 生徒会の計画や運営
- (2) 異年齢集団による交流
- (3) 生徒の諸活動についての連絡調整
- (4) 学校行事への協力
- (5) ボランティア活動などの社会参画

これらの活動内容は相互に関連し合っているが、ホームルーム活動や学校行事などの活動内容とも深く関連している。活動の実施に当たっては、特別活動の内容相互の関連を図って、充実した生徒会活動を進めていくことが必要である。

3 生徒会活動の各内容の指導等について

(1) 生徒会の計画や運営

この活動内容は、生徒会活動の計画や運営に関しての、通常、学校内で行われる生徒会のあらゆる活動を意味する。その活動の内容は、生徒会行事など生徒会の直接的な活動の企画・立案、実施（運営）などのほか、生徒会の規約や組織の改廃、役員を含む各種の委員の選出をはじめ、実践面の中心になる各種の委員会の組織における活動の全てが含まれると考えられ、それらを通して学校生活の充実や向上を目指す活動である。

【活動例】

- 校内美化運動 ○学校新聞や生徒会誌の編集及び発行 ○新入生を迎える会
○学校生活上の問題点について広く意見を求めること 等

(2) 異年齢集団による交流

ホームルームや学年を超えた生徒相互の心の交流を図り、より望ましい人間関係

を深め、全生徒の間に所属感や連帯感を高めることは、学校生活を充実する上で大切なことである。さらに、社会の一員としての自覚を深めるために、異年齢集団による交流活動を、学校内だけでなく学校外まで広げていくことも必要である。

【活動例】

○卒業生を送る会 ○校内球技大会 ○小・中学生や幼児との交流活動 等

(3) 生徒の諸活動についての連絡調整

生徒会活動は、学校内の様々な他の生徒の活動についての連絡調整に関する機能を持ち、こうした連絡調整機能が十分に発揮されることを通して、ホームルーム活動をはじめとする様々な生徒の活動が一層活性化されていくことが期待されている。

【活動例】

○生徒会行事におけるホームルームとの連絡調整 ○部活動などの活動の計画の調整 等

(4) 学校行事への協力

学校が計画し実施する学校行事が効果的なものとなるためには、生徒がそれぞれの行事の趣旨を理解し、これに協力することが大切であり、生徒会として、計画や実施に積極的に協力し、参加することが大切である。また、学校行事を行うに当たっては、教師の適切な指導によって、生徒会の立場から自主的、積極的な協力ができるように配慮することが大切である。

【活動例】

○学校行事における実行委員会の組織
○各種委員会等の活動の中に学校行事への協力を位置付けること 等

(5) ボランティア活動などの社会参画

生徒会活動としては、学校内で行われる生徒会としての活動のほかに、地域社会のボランティア活動への参画や他校との交流など、生徒の学校生活全体の充実・向上に結び付くような学校外の活動も活動内容として挙げられる。この活動を通して、生徒が社会の一員であるという自覚を深め、人間尊重の精神に立って、社会の中で共に生きる豊かな人間性を養うとともに、自分を見つめなおし自己実現に向かって人生を切り拓く力を育む大切な活動である。

【活動例】

○福祉施設等でのボランティア活動 ○幼児や高齢者との交流
○地域のスポーツ行事や国際交流等への参画・協力 等

4 生徒会活動の内容の取扱いについての配慮事項

生徒会活動の指導に際しては、次の事項に配慮することが必要である。

(1) 指導内容の特質に応じて、教師の適切な指導の下に、生徒の自発的、自治的な活動が効果的に展開されるようにするとともに、内容相互の関連を図るよう工夫すること。また、よりよい生活を築くために集団としての意見をまとめるなどの話し合い活動や自分たちできまりをつくって守る活動、人間関係を形成する力を養う活動などを充実するよう工夫すること。

(2) 学校や地域及び生徒の実態に応じて、取り上げる指導内容の重点化を図るとともに、入学から卒業までを見通して、必要に応じて内容間の関連や統合を図ったり、他の内容を加えたりすることができること。

5 目標と指導内容との関連を十分に図った効果的な実践事例

次に示す、生徒会を軸とした活動の例は、携帯電話でのトラブルなど生徒の身近な問題の解決を図るため、互いの意見の違いを超え、よさを生かしながら合意形成を図ったり、効果的に自己決定につなげたりする話し合い活動を特に意識したもので、ホームルーム活動や学校行事等と内容相互の関連を深めながら進めている事例である。

○生徒会を軸とした活動の例

1 活動の内容 高校生の身近な問題である携帯電話等でのトラブルについて考え、生徒自身で携帯電話の使い方のマナーやルールを決定する。			
2 目標 携帯電話等に関する話し合い活動を通して、集団や社会の一員としてよりよい学校生活づくりに参画し、協力して諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度を育てる。			
3 活動の計画			
活動の場	活動の内容	指導上の留意点	評価規準と評価方法
全校生徒への講演会 【学校行事】	・講演会等を通して、生徒の課題意識を高める。	問題の発見	
放課後での事前準備	・生徒会として、課題意識を共有し、解決のため、全員で話し合う議題を決める。やホームルームや生徒総会での話し合い活動の計画を立てる。	議題の決定	・生徒の思いを聞きながら、今後の流れを、今検討させ、行動の見通しをもてるようにする。 【関心・意欲・態度】 ・話し合い活動が自主的に進めようとしている。 [観察]
【生徒会活動】		計画の作成 問題の意識化	
ホームルームの時間 【ホームルーム活動】	・生徒会の提案を改善に向けた意見交換をする。	話し合い活動 ①問題意識の共有 ②問題解決に向けた話し合い活動 ③集団決定	・必要に応じて、生徒会を経た過程を、所属感の深められるよう助言する。 【思考・判断・表現】 ・提案に対し、多様な考えをよりよくまとめ、理由を述べ、意見を述べている。 [学習活動カード]
生徒総会 【生徒会活動】	・多様な意見を生かし、携帯電話のマナーやルールを決定する。		
ホームルームの時間 【ホームルーム活動】	・生徒総会で決定したことを各自組を考える。取組状況や成果を振り返る。	実践・振り返り	・生徒総会で決めたことを自分で具体的にどう心がけるか助言する。 【知識・理解】 ・生徒自らが取り組むことの意義を理解している。 [振り返りカード]

特別活動における話し合い活動

特別活動は、学校で生活する生徒たちにとって最も身近な社会であるホームルームや学校における生活改善のための話し合い活動や実践活動を通じて、主体的に社会の形成に参画しようとする態度や自己実現を図るために必要な力を養ったり、各教科等におけるグループ活動等の協働的な学びの基礎を形成したりする役割を果たしている。また、よりよい人間関係に基づくホームルーム経営の充実を図る役割としても重要である。

自分たちが所属する集団や社会の充実と向上のため、教科等で身に付けた資質・能力を活用し、意見の違いや多様性を生かしつつ集団としての意見をまとめていく話し合い活動などは、社会参画の意識や合意形成のための思考力・判断力・表現力等を養うものである。

Topic

「主体的に行動する態度」を身に付けさせる防災教育の展開 ～地域と連携した複合的避難訓練～

自然災害では、想定した被害を超える災害が起こる可能性が常にあり、自ら危険を予測し回避するために、習得した知識に基づいて的確に判断し、迅速な行動をとることができる力を身に付けることが必要である。そのためには、日常生活においても状況を判断し、最善を尽くそうとする「主体的に行動する態度」を身に付けさせることが極めて重要であり、発達の段階に応じた系統的な指導が必要である。

高等学校においては、「社会貢献や支援者の基盤」となる態度を育む観点から防災教育に取り組むことが求められることから、特別活動において、次のような活動を行うことが考えられる。

【地域と連携した複合的避難訓練】

緊急地震速報が発表された場合や地震や火災が発生した場合に、自分の安全を確保する適切な避難行動をとることができるようにするとともに、災害時の自助・共助の基本的行動について確認し、高校生としてのリーダーシップや支援活動など、自分たちにできることを考えさせ、防災意識の向上を図る。

I 緊急地震速報の仕組み等についての学習【ホームルーム活動】

主な活動	教師の働きかけ	留意点等
1 緊急地震速報の仕組みやその際の行動の仕方について確認する。 2 避難訓練に必要な行動の仕方について考え、整理する。 ・自分の安全の確保 ・支援者としての行動の在り方等 3 「災害図上訓練（DIG）」を実施し、校区の防災地図の作成や災害発生時の対応の検討を行う。	○緊急地震速報の仕組みや避難の心得等について資料に基づき説明する。 ○近隣の小学生や地域住民との合同訓練であることを説明し、支援者としての立場で避難訓練に臨むよう促す。 ○災害発生時をイメージさせながら取り組ませる。	◇気象庁の広報資料を活用する。 ◇自治体作成のハザードマップを提示する。 ◇避難所の確認を行う。

II 避難訓練及び避難所開設【学校行事】

主な活動	教師の働きかけ	留意点等
1 緊急地震速報への対応行動をとる。 ・授業中（教室や体育館、グラウンド等それぞれの場所で活動） ・震度6弱の揺れ、津波の想定 ・事前に定められた場所へ避難 2 津波災害による避難所として本校に小学生や近隣住民が避難し、支援活動を展開 ・避難者の誘導 ・避難所設営の補助 ・応急手当への支援 等 3 訓練を終了し、教室に戻って各自で訓練の反省を行う。	○校内放送で速報が発表されたことを周知する。 ○落ち着いて揺れに備えるよう指示する。 ○事前学習を踏まえ、役割分担に従って支援活動を行うようにする。 ※評価 災害時に自分にできることを考え、主体的に避難者を支援しようとしている。 〈関心・意欲・態度〉	◇町の防災担当者も参加し、簡易的な避難所開設を行う。

III 振り返り【ホームルーム活動】

主な活動	教師の働きかけ	留意点等
1 各自で反省したことを交流し、成果や課題をまとめる。 2 消防署職員の講評を聞き、訓練の成果等を確認する。	○課題や成果が明確になるよう、ポイントを板書する。 ○校内放送で講評を流す。	◇講師：消防署職員

参考

- 「学校防災のための参考資料『生きる力』を育む防災教育の展開」（平成25年3月、文部科学省）
- 「学校安全推進資料（平成25年度改訂版）」（平成26年3月、北海道教育委員会）
- 「安全教育実践事例集」（北海道教育委員会）